

システム・ダイナミクス学会日本支部
2013年度 第1回会員総会

修正版

開催日：2013年7月6日(土)14:00
開催場所：専修大学神田校舎2号館204教室



議題

議長の選出

<報告事項>

報告1 2013年度第1回(電子)理事会報告

<審議事項>

議案1 2012年度事業報告

議案2 2012年度決算報告・監査報告

議案3 2013年度事業計画

- (1) JSD学会誌の発刊
- (2) JSD研究会の開催
- (3) 研究分科会の設置
- (4) JSDカンファレンスの開催
- (5) 総会の開催
- (6) ホームページの更新
- (7) その他

議案4 2012年度予算案

その他

【総会成立条件】

2013 年度 JSD 総会有効回答数

- (1) 出席予定者数 (19 名)
- (2) 議長への委任者数 (30 名)
- (3) 結論

2013 年年度年初の会員の議決権者が (142 人) であるので、定足数 (議決権者の 1/3) は (47 人) となる。よって、議長への委任者数を含めて、定足数を満たしていることから、本総会は成立した。

【会員状況】

2009 年度末会員数	102 人	(2009 年 6 月 30 日現在)
2010 年度末会員数	137 人	(2010 年 3 月 31 日現在)
2011 年度当初会員数	130 人	(2011 年 6 月 15 日現在)
2012 年度当初会員数	135 人	(2012 年 6 月 15 日現在)
2013 年度当初会員数	142 人	(2013 年 6 月 20 日現在)

【2012 年度本部役員】

1. 1 運営組織

会長 : 内野明

副会長 (会長補佐、研究) : 田中伸英

総務担当理事 (Executive Director) : 福田敦

国際担当理事 (International Society Liaison) : 山口 薫

理事 (学会誌編集) : 小山茂 (編集委員長)、有村幹治、海老根敦子

理事 (研究) : 高橋 裕、武田晋一、鈴木宏典、岩尾詠一郎

理事・事務局担当幹事 :

小早川 悟 (会計)、石坂哲宏 (HP の運営・管理)、伊東英幸 (会員管理)

監事 : 町田欣弥、渡部淳一

1. 2 顧問

坂倉省吾先生

小林秀徳先生

1. 3 担当幹事

事業推進において担当理事を補佐する幹事を、各担当責任者の要請に基づき、会長が継続して委嘱した。

研究関連担当幹事 木下紘輔、藤間翔太

報告 1

1. 2013 年度 J S D 総会提出資料に関する理事会報告(第 1 回理事会)

理事会

- (1) 期間 7月2日～5日
- (2) 形態 理事会 ML による電子理事会
- (3) 出席者： 理事会メンバー全員
内野 明、田中伸英、福田 敦、山口 薫、小山 茂、有村幹治、海老根敦子、高橋 裕、武田晋一、鈴木宏典、小早川 悟、伊東英幸、石坂哲宏、岩尾詠一郎、町田欣弥、渡部淳一
- (4) 議事

< 審議事項 >

- 議案 1 2012 年度事業報告
- 議案 2 2012 年度決算報告・監査報告
- 議案 3 2013 年度事業計画
 - (1) JSD 学会誌の発刊
 - (2) JSD 研究会の開催
 - (3) 研究分科会の設置
 - (4) JSD カンファレンスの開催
 - (5) 総会の開催
 - (6) ホームページの更新
 - (7) その他

議案 4 2012 年度予算案

- (5) 審議結果
提出案が承認された。

議案 1

1. 2012 年度事業報告 (2012 年 4 月 1 日～2013 年 3 月 31 日)

1. 1 編集委員会活動報告 : 編集委員長 小山茂 (理事)

1. 編集委員会の設置

編集委員会を昨年度に引き続き設置した。編集委員長、編集委員、編集委員会担当幹事は以下の通り。

- (1) 編集委員長
小山茂
- (2) 編集委員
有村幹治 (理事)、海老根敦子 (理事)

2. 学会誌 11 号

研究論文 4 編を採択し、また研究奨励寄付金制度 研究紹介・学会参加報告 1 編を基に、学会誌 11 号を編集し、平成 24 年 8 月 31 日に発行した。

3. 学会誌 12 号

- (1) 本年度は、投稿募集の遅れにより、学会誌の審査手順を少し変更して学会誌研究論文を公募した。7 編のアブストラクトの投稿があり採択した。最終的には研究論文として 5 編の投稿があり、現在審査を行っている。本年度は査読者決定に際し、高橋裕理事のご助言をいただいた。ここに深く感謝する次第である。
- (2) 本年度は、昨年度のカンファレンスに投稿いただいた論文の内、1 編を研究論文として採択している。
- (3) 学会誌の印刷業者を選定し、8 月下旬に発行予定である。

1. 2 JSD 研究会

- (1) 担当：内野会長、福田敦 (理事)、研究担当理事
- (2) 開催場所：総会開催場所

講演タイトル：MARS model に関して

講演者：Dr. Agachai SUMALEE

Assistant Professor of Department of Civil and Structural Engineering, The Hong Kong Polytechnic University

MARS (Metropolitan Activity Relocation Simulator) モデルは、ウイーン工科大学のグンター・エンデバーク教授を中心に開発された地域分析モデルで、オーストリアを中心に世界で広く用いられています。

交通と土地利用の相互作用をフィードバックループで記述し、最適な土地利用と交通政策を検証することができるようになってきました。MARS については、System Dynamics Review Vol.26 No.3 (2010) の System Dynamics and Transportation 特集の中で、グンター先生ご自身が紹介されています。今回は、グンター先生と親交があり、タイでの適用などを行った経験のあるエガチャイ先生が来日されていますので、MARS モデルの概要を紹介していただいた。

1. 3 研究分科会の活動促進

研究分科会の設立を促すために、会員に向けて必要な広報を図った。開催には至らなかった。

1. 4 カンファレンスの開催 担当：研究担当役員

JSD Conference 2012

日時：11月24日（土）午後1時～4時

場所：同志社大学今出川キャンパス 寒梅館2F（KMB 211教室）

発表は7件で、各種の分野での実践的SD利用例が報告されました。

同日午前には、同じ会場でSDソフトウェアのVensimワークショップも開催され、盛況でした。

プログラム

13:00 開会の辞

13:05 副会長挨拶 学習院大学経済学部 田中伸英

13:10 小塩篤史 日本医科大学 医療管理学教室

"未踏高齢社会における保健医療提供体制のデザイン
ーシステムダイナミクスによる需要変動の影響分析ー"

13:40 西 信雄 (独) 国立健康・栄養研究所

国家的減塩戦略のシミュレーションモデル

14:10 近藤史人 株式会社 第一コンピュータリソース

システム思考を活用したBABOKの要求分析

14:40 休憩

14:50 湊宣明 慶應義塾大学

Business Model Canvas を用いたビジネスモデルの統合設計・評価手法の開発

15:20 福島 史郎 同志社ビジネススクール

何故活能力が関与する経営革新活動ではステージ論が見られるのか？

15:50 文野義明 神戸大学大学院 海事科学研究科

Comparative Research on Nuclear Powered Ships and Diesel Ships Regarding
Economics with External Cost

16:20 佐藤安弘 同志社大学大学院 総合政策科学研究科

日本の電機産業は「選択と集中」に乗り遅れたのか？

ーSDによる製品ドメインに関する意思決定モデル分析（2）ー

16:50 開催校挨拶 同志社大学大学院 総合政策科学研究科 (JSD 理事) 山口 薫

16:55 閉会の辞

1. 5 System Dynamics Society などでの国際交流の促進

特になし

1. 6 会員管理・ML運営 担当：伊東理事

2013年6月時点で会員数は142人となっており、昨年度の135人と比較して7名の増加となった。

2012年度の会員管理としては新会員の登録、退会者の削除、住所やメールアドレスの更新などの名簿管理と、メーリングリスト（以下ML）の追加・削除などの更新管理を行った。個人情報等が記載されている会員名簿のファイルは、パスワードをかけて厳重に管理し、事務局内で共有している。

新規入会に関しては、従来の手続きと同様に、はじめに理事会への入会承認の問い合わせを行い、1週間後に異論がなければ承認とし、その後、年会費の入金を依頼する手順とした。年会費の入金を確認出来次第、入会者のメールアドレスをメーリングリストに登録するとともにJSDの概要説明をメールで連絡し当該年度のJSD学会誌を郵送した。これに加え、例年と同様に年度末（1～3月の間）に入会した場合は、次年度の年会費は請求しない旨を新規入会者に連絡した。

年会費の支払いに関しては、会員から請求書や領収書の送付依頼があった場合には適宜、郵送を行った。年会費の入金確認は、2012年度よりゆうちょ銀行のWebサイトから確認を行っている。

現在、年会費の未払い会員が多数いる状況であるため、年会費の支払い請求を引き続き

行う予定であるが、長期にわたり年会費の支払いに応じない会員に関しては規約に基づいて退会処理などを行っていく予定である。

1. 7 HP 管理 担当：石坂哲宏理事

引き続き適切な情報発信を行った。

1. 8 研究活動の奨励制度

継続的に募集を行ったが、申請なし。

1. 9 国際的な研究活動に向けた検討・準備

特段の国際的な研究活動に向けた要請がなかった。引き当てていた準備金は取り崩し、来年度に引き継ぐこととする。


議案 2

2. 2012 年度収支決算報告・監査報告

2012年度収支決算書
(2012年4月1日～2013年3月31日)

	2012年度予算額	2012年度決算額
収入の部		
前期繰越金	2,619,730	2,619,730
個人会費	500,000	379,000
賛助会費	50,000	50,000
出版物売上	100,000	19,500
雑収入	0	663
当期収入合計	650,000	449,163
収入の部合計	3,269,730	3,068,893
支出の部		
通信費	100,000	12,020
印刷費	100,000	33,033
学会誌印刷費	400,000	161,610
事務用品費	10,000	944
講師謝金	50,000	20,000
交通費	5,000	0
雑費	30,000	840
会議費	10,000	35,891
研究分科会補助金	50,000	0
アルバイト謝金	20,000	35,200
前年度未処理分(通信費)	0	7,510
事務所賃貸料	24,000	0
当期支払合計	799,000	307,048
次期繰繰り越し	2,470,730	2,761,845
(預金残高)		2,731,424
(現金残高)		30,421
(未払い金)		0
支出の部合計	3,269,730	3,068,893

2013年 3月31日 理事(会計担当) 小早川 悟 

2013年 3月31日 理事(総務担当・事務局長) 福田 敦 

上記の会計について監査の結果、適正であることを認めます。

2013年 6月 29日 監事 町田 欣弥 

2013年 6月 29日 監事 渡部 淳 

議案 3

3. 2013 年度事業計画

(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

3. 1 JSD 学会誌の発刊

- (1) 担当：編集委員長 小山茂（理事）、
編集委員 有村幹治（理事）、海老根敦子（理事）
編集担当幹事 規定に基づき適宜委任

(2) 2014 年 8 月を目途に発行を行う。

3. 2 JSD 研究会の開催

- (1) 担当：内野明会長、福田敦（理事）、高橋裕（研究担当理事）

(2) 開催場所：総会開催場所

(3) 開催時期：2013 年 7 月 6 日 総会開催時

プログラム

15:00-16:00 「日本における SD の導入期」 亀山三郎（中央大学名誉教授）

ショートトーク

16:00-16:20 「10 ステップの SD モデリング」 高橋 裕（専修大学）

16:20-16:40 「医療と介護の連携」 明神 知（オーグス総研）

16:40-17:00 「講義『システム工学』での SD の利用－交通流モデルの理解と作成－」

石坂 哲宏・福田 敦（日本大学）

17:00-17:30 「経営者を説得した SD 事例」 蓮尾 克彦

3. 3 研究分科会の設置

(1) 担当：全役員

(2) 目標と活動方針

3 つ以上の研究分科会が活動を開始することを目指す。研究分科会の活動に参加する非会員が SD に関する実用的な価値を理解して、JSD に入会するきっかけとなることを期待する。そのために、初年度に限り JSD 会員以外も研究分科会のメンバーとして登録できることとする。JSD 会員以外の登録については、研究分科会の主査の管理下において実施する。

3. 4 JSD カンファレンスの開催

(1) 担当：研究担当理事・事務局を中心にカンファレンス運営委員会を組織して実施する。

(2) 開催場所：東京を予定しているが、可能であれば他の地域も模索する。

(3) 開催時期：2013 年 11 月頃

(4) 申し込み：2013 年 7 月～2013 年 8 月（予定）詳細は後日 ML 等で告知します。

送付宛先 : conference@j-s-d.jp

内容 : アブストラクトの字数は、300～400 字。

カンファレンス 2012 運営委員会

項目は、①題名、②発表者、③論文の目的と概要

なお、背景を冗長に記述しないようご注意ください。

(5) 論文締め切り：10 月末

論文の容量は、6～16 ページ。論文フォームは学会 HP に近日中に掲載します。

3. 5 総会の開催

- (1) 担当 : 事務局長 (総務担当理事)、事務局担当理事
- (2) 2013年7月にJSD研究会と合わせて開催する。

3. 8 ホームページの更新

必要なコンテンツ掲載など適宜、更新する。

3. 9 その他

議案 4

4. 2013 年度予算案

2013 年度 JSD 予算(案)

(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

収入の部

前期繰越金	2,761,845
個人会費	500,000
賛助会費	50,000
出版物売上	30,000
雑収入	0
当期収入合計	580,000
収入の部合計	3,341,845

支出の部

通信費	20,000
印刷費	50,000
学会誌印刷費	200,000
事務用品費	10,000
講師謝金	50,000
交通費	10,000
雑費	50,000
会議費	30,000
研究分科会補助金	200,000
アルバイト謝金	250,000
前年度未処理分	0
事務所賃貸料	0
当期支払合計	870,000
次期繰繰り越し	2,471,845
(預金残高)	
(現金残高)	
(未払い金)	
支出の部合計	3,341,845

【参考】

システム・ダイナミクス学会日本支部 規約

第1条 (名称)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部と称する。

第2条 (目的および事業)

本会はシステム・ダイナミクス学会日本支部英文規約 (Constitution of the Japanese Chapter of the System Dynamics Society, 以下規約という) 第2条に掲げる目的を達成するために次の事業を行う。

なお、事業活動に必要な規則等は別に定める。

- (1) システム・ダイナミクスに関する研究会の開催
- (2) システム・ダイナミクスに関する図書、報告書、資料等の発行
- (3) システム・ダイナミクスに関する調査研究
- (4) システム・ダイナミクスに関係ある内外の学会、その他団体との連絡協議
- (5) その他規約に掲げる目的の達成に必要な事業

第3条 (会員構成)

- 1 本会は一般会員、学生会員、賛助会員および会友をもって構成する。
- 2 一般会員および学生会員は、本会の主旨に賛同し、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
- 3 賛助会員は本会の主旨に賛同する団体で、第4条に定める手続きにより入会したものをいう。
なお、賛助会員は1口につき最大5名が一般会員として登録できる。
- 4 会友は国際交流の促進を図る目的で、本会の会長がシステム・ダイナミクス学会 (The System Dynamics Society) の会員の中から入会を招請したものを言う。

第4条 (入会)

- 1 入会を希望するものは、所定の入会申込書によって本会の会長に申し出なければならない。
- 2 入会は理事会において承認し決定する。

第5条 (会費)

本会の会費は一般会員については年5,000円、学生会員については年2,000円、賛助会員については1口年50,000円とする。

第6条 (退会)

- 1 一般会員、学生会員および賛助会員は本会の会長に届け出て退会することができる。
- 2 会費の滞納が1ヶ年以上におよぶときは原則としてその資格を失う。

第7条 (役員)

本会に次の役員を置く。

会長 (President)	1名
副会長 (Vice-President)	3名以内
理事 (国際担当: International Society Liaison)	1名
理事 (総務担当: Executive Director)	1名
理事	10名以内
監事	2名

第8条 (役員を選任)

- 1 会長は総会に先立つ一般会員、学生会員および賛助会員による選挙によって選出する。
選挙細則は別途定める。
- 2 副会長、理事、監事は総会において一般会員および賛助会員の中から会友を除く出席者の過半数の賛成を得て選出する。

第9条 (理事会)

- 1 理事会は役員をもって構成し、毎年の総会時および会長がその必要を認めたとき、または役員の過半数以上の要請があるときに開催する。
- 2 理事会は、本会の活動を統括する。
- 3 理事会は、必要に応じて本会の活動にかかわる事項を審議し、実行するための各種委員会・分科会を設置することができる。
- 4 会長が必要と認めたときは、幹事を置くことができる。
- 5 委員および幹事は、会長が委嘱する。
- 6 委員、幹事の任期は2年とし重任を妨げない。

第10条 (役員任期)

役員任期は2年とする。

第11条 (顧問)

会長は、理事会の議を経て、顧問を委嘱することができる。

第12条 (総会)

総会は年1回以上開催し、役員を選任、事業計画、予算、決算、規約の変更、その他重要事項を承認する。

第13条 (定足数)

総会の定足数は会員の3分の1以上、理事会の定足数は役員の2分の1以上とする。

第14条 (会計年度)

会計年度は毎年4月1日より、翌年3月31日にいたる期間とする。

第15条 (事務局)

- 1 本会の事務局を下記に置く。
〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部社会交通工学科交通システム研究室内
システム・ダイナミクス日本支部事務局
TEL: 047-469-5355
- 2 事務局は理事 (総務担当) と幹事で構成し、理事 (総務担当) が事務局長を務める。

- 付 則 1 第 10 条の規定にかかわらず、支部発足時の役員の任期は 1991 年 12 月 31 日までとする。
2 本内規は 1990 年 9 月 22 日より発効する。
3 1991 年 7 月 22 日一部改正 4 1992 年 2 月 17 日一部改正 5 1995 年 3 月 13 日一部改正
6 1996 年 3 月 29 日一部改正 7 2003 年 2 月 12 日一部改正 8 2004 年 1 月 31 日一部改正
9 2005 年 4 月 2 日一部改正
10 第 14 条の規定にかかわらず、2005 年度会計年度は、2005 年 1 月 1 日から 2006 年 3 月 31 日までとする。
11 2010 年 4 月 24 日一部改正：第 15 条（事務局）の改訂

システム・ダイナミクス学会日本支部 会長選出に関する細則

- 第 1 条 この細則は「システム・ダイナミクス学会日本支部規約」第 8 条に 定めた会長の選出に関する手続きを定めるものである。
- 第 2 条 会長の選出は次の各項による。
- 1 会長は一般会員と賛助会員に対して、文書またはそれに準じる方法によって次期会長候補の推薦を期末 45 日以前に、14 日間の期間を設定して求める。
 - 2 5 名以上の会員が推薦し、被推薦者が候補者となることを了承することにより、代表推薦人は会長に文書またはそれに準じる方法で、以下の内容を届出る。
推薦人：氏名、住所、所属、e-mail、電話、(代表推薦人マーク)
被推薦人：氏名、住所、所属、職位/資格、e-mail、電話、専門、略歴、
JSD 会長としての目標・抱負(400 字以内)
 - 3 会長は規定の期間内に届出があった候補者に確認した上で、会長選挙を郵便により期末の 14 日以前に 7 日間の期間を設定して実施する。
 - 4 会長は会長選挙の結果を理事会で開封して集計し、第 1 位の候補に当選認定書を交付し、新役員候補の選定を促す。
 - 5 新年度の総会において会長は、新会長に権限を委譲する。

研究分科会の設立と運営に関する内規

1. 研究分科会が発足するまでのプロセス
 - ① 提案者：研究分科会の設立提案をサロン・メールで発信
 - ② 全会員：サロン・メールによる意見交換とメンバー募集
 - ③ 提案者：研究分科会の設立提案書を事務局までメールで送付
 - ④ 会長による承認
 - ⑤ 研究分科会活動開始
2. 諸規定
 - (1) 設立条件
5 名以上の会員をメンバーとして、代表者が提案し、その目的が JSD の活動主旨に沿い、JSD の研究・普及活動を活性化させる可能性が認められるとき、会長は研究分科会の設立を承認する。
 - (2) 参加資格
研究分科会の活動に貢献する JSD 会員は、いかなる研究分科会にも参加できる。
 - (3) 研究分科会の組織と運営
分科会には主査と幹事をおき、事務局が設定した分科会専用の ML の管理も自主的に行う。
 - (4) 研究分科会の権利と義務
 - ① 分科会メンバーの変更があった場合には、速やかに事務局に届け出る。
 - ② 研究報告を研究会で発表するよう担当理事に求められた場合には指示に従う。
 - ③ 少なくとも年 1 回以上は JSD 研究会等で発表する。
 - ④ 会議場、コピー代など研究分科会開催に必要な経費は、領収書とともに事務局に申請すれば支払を受けることができる。ただし、各研究分科会の上限は別に定める。
3. 研究分科会の設立申請様式
メンバーリストを入力した Excel ファイルと下記の申請内容を事務局メール宛に送付して申請する。
事務局：jsd-office@yahoogroups.jp

分科会設立申請書

下記の内容の研究分科会の設立を申請します。

申請日 :
申請者 :
名称 : 研究内容が推測できる研究分科会の名前
共同申請者 : 添付する Excel ファイルに 5 名以上の JSD 会員名を記載
趣旨 : 研究分科会を立ち上げる背景と狙い、参加メンバー利得、期待できる成果、等について具体的に
 記載
研究内容 : 研究対象、研究構成、研究内容、研究計画、等について具体的に記載
研究体制 : 研究組織、研究実施方法、打ち合わせ頻度・形式、作業分担方法、等についてできるだけ具体的に
 記載

メンバーリストの Excel ファイルには、代表世話人を含めて下記情報を記載。

名前, e-mail アドレス, 所属機関名

編集委員会細則

- 第1条 (目的)
当日本支部規約第2条に定める事業を行うために、編集委員会を設ける。
編集委員会は、当日本支部で発行する学会誌の発行に関する諸事項の決定およびそれらの処理事項を実施する。
- 第2条 (委員会の構成)
編集委員会の構成は次の通りとする。
編集委員長 1名
編集副委員長 1名
編集委員 若干名
- 2 編集委員長と編集副委員長は当日本支部の会長が理事会メンバーの中から任命する。
- 3 編集委員は編集委員長が当日本支部の会員の中から委嘱する。
- 第3条 (委員の任期)
編集委員長、副委員長、委員の任期は2年間とする。
- 第4条 (委員会の業務)
委員長は編集委員会を招集し、次の事項を審議し処理する。
①学会誌の投稿規定の策定と論文募集
②学会誌研究論文の査読適格者の委嘱と投稿論文ごとの選任
③学会誌の編集に関わる業務
④学会誌の発行・送付に関わる業務
- 第5条 (委員会の報告)
委員長は編集委員会の審議内容、業務遂行内容を理事会に適宜報告する。
- 付則 2005年12月24日から発行する。

学会誌研究論文査読規定

1. 審査の目的
投稿された研究論文が当日本支部の学会誌に掲載するにふさわしいか否かを審査基準に基づき判断する。
2. 審査基準
投稿された研究論文は、以下の項目に照らして査読者が総合的に審査する。
分野 : システム・ダイナミクスに関連した内容であること。
論理性 : 論旨の展開が明快で、記述が簡潔・明瞭であること。
新規性 : 内容に新たな知見が盛り込まれていること。
信頼性 : 結論等を信頼するに値する客観的な考察が示されていること。
有用性 : 得られた結論・経過が学術領域あるいは実社会において有用であること。
3. 査読者
編集委員会が指名する2名の査読者が審査基準に基づき審査にあたる。査読期間は編集委員会から送付されて2ヶ月以内とする。査読適格者の氏名は公開するが、個々の投稿論文も対する査読者の氏名は公開しない。査読者と投稿者との直接の接触は許容されず、必ず編集委員会を介する。
4. 判定
査読者の審査結果に基づき研究論文は以下のいずれかに判定される。査読者の意見が割れた場合には編集委員長がこれを決する。
①そのまま掲載
②指摘事項を修正したことを編集委員長が確認して掲載
③再度差読者の審査が必要
④掲載不可

②と判定された研究論文の投稿者には掲載条件が指示される。投稿者が指示に従い修正したことを編集委員長が確認すれば掲載に分類される。投稿者に異論がある場合には、論拠を編集委員長に文書でもって提出し、編集委員会で審議の結果、提出文書が適切であると判断されたなら掲載に分類される。修正が十分でなく、また異論根拠が文書で提出されない場合には④掲載不可に分類される。
③と判定された研究論文は、修正後に査読者により出版までの時間が許容する範囲内で審査する。時間切れの場合には、④掲載不可に分類される。

参考資料

2012-2013 年度役員・事務局体制

規約第8条2項により副会長、理事、監事は総会において一般会員および賛助会員の中から会友を除く出席者の過半数の賛成を得て選出することになっている。次の通り役員選任案を提案いたします。

副会長	研 究	田中伸英	学習院大学経済学部
理事 (総務担当)		福田 敦	日本大学理工学部
理事 (国際担当)		山口 薫	同志社大学大学院
理事 編 集 編集委員長		小山 茂	札幌大学女子短期大学部
理事 編 集 編集委員		有村幹治	室蘭工業大学
理事 編 集 編集委員		海老根敦子	駿河台大学経済学部
理事 研 究		高橋 裕	専修大学商学部
理事 研 究		武田晋一	拓殖大学国際学部
理事 研 究		鈴木宏典	日本工業大学
理事 研 究		岩尾詠一郎	専修大学商学部
理事 事務局 会計		小早川 悟	日本大学理工学部
理事 事務局 会員管理		伊東英幸	日本大学理工学部
理事 事務局 H P		石坂哲宏	日本大学理工学部
監事		町田欣弥	駿河台大学経済学部
監事		渡部淳一	法務省

事務局